

## 高校生が体を動かして自衛隊を体験

自衛隊静岡地方協力本部三島募集案内所（所長・林正士一等陸尉）は9月25日（水）から27日（金）の間、知徳高校（駿東郡長泉町）2年生4人の職場体験学習を行った。

初日は、航空自衛隊静浜基地（焼津市）で航空機の整備の様子や装備品を見学し、消防小隊では防火服を試着して航空自衛隊の仕事をした。また、県内出身のパイロット教官から話を聞き、「お給料はどのくらいですか」と質問するなど興味津々な様子だった。

2日目は知徳高校の校内で三島の広報官が講師となり、自衛官の動きの基本となる基本教練や、腕立て伏せ、腹筋といった体力検定種目、手旗信号や格闘訓練の体験を行った。格闘訓練では相手の攻撃をかわず体さばきを教わり、生徒たちは「もっと詳しく知りたい」と熱心に打ち込んでいた。

3日目は陸上自衛隊駒門駐屯地（御殿場市）を訪れ、いざというときに役立つロープワークや救急法を体験したほか、軽装甲機動車の体験試乗、戦車の見学などを通して陸上自衛隊への理解を深めた。

参加した生徒は「2日目に張りすぎて筋肉痛になったけれど、毎日違う体験ができて良かった」と満足げな様子だった。三島所は、引き続き学校からの依頼に応じて職場体験等を実施し、自衛官という職業に対する理解促進を図っていく。



ロープワーク



基本教練

## イオン志都呂防災フェスに災派の車が登場

自衛隊静岡地方協力本部浜松出張所（所長・有吉将人一等空尉）は10月6日（日）、イオンモール浜松志都呂店（浜松市）北側駐車場で行われた防災フェスに、航空自衛隊高射教導群（浜松市）とともに参加した。

このイベントは、地域住民の防災意識の啓発を目的として年1回開催されているもので、自衛隊は昨年に続き2回目の参加となった。前日の大雨とは打って変わって当日は晴天に恵まれ、多くの家族連れが来場した。自衛隊、警察、消防、住宅メーカーなどが会場に広報ブースを開設し、自衛隊は高射教導群が待機車2号と3.5トン水タンク車を展示し、静岡地本は募集相談員とともに制服試着体験などを行った。

大人も子供も着られる制服試着体験は家族連れの人気を集め、トイレやシャワー、水道といった設備が備えられている待機車の内部を見学した来場者からは「災害派遣中はここで生活しているなんて驚きました」「大きなキャンピングカーみたいで楽しそう」といった感想が聞かれた。

また、水タンク車を見た来場者は「一昨年の（静岡市）清水区の断水でも活躍したんですね。県民のためにありがとございます」と隊員に感謝の言葉を伝えていた。

浜松所は、今後も地域住民とのつながりを密に、防災意識の高揚と自衛隊の活動への理解促進に寄与していく。



待機車見学



制服試着体験